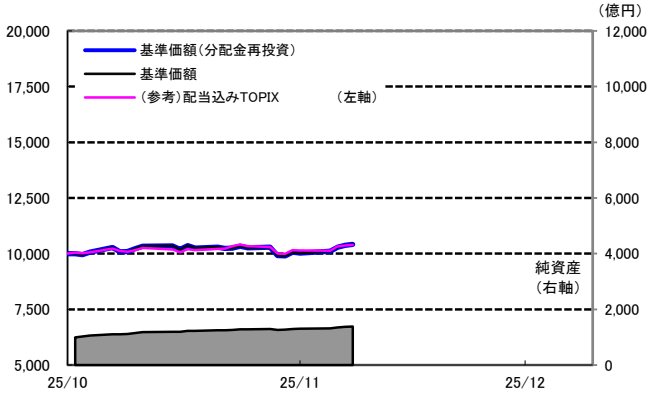


運用実績

2025年11月28日 現在

運用実績の推移

(設定日前日＝10,000として指数化：日次)



・上記の指数化した基準価額(分配金再投資)の推移および右記の騰落率は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。従って、実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

基準価額※

10,413 円

※分配金控除後

純資産総額

1,378.1億円

騰落率

期間	ファンド	(参考)配当込みTOPIX
1ヵ月	0.7%	1.4%
3ヵ月	－	－
6ヵ月	－	－
1年	－	－
3年	－	－

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。
※配当込みTOPIXはファンドのベンチマークではありません。

設定来	4.1%	4.0%
設定来累計	0 円	

設定来＝2025年10月22日以降

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

配当込みTOPIX(「東証株価指数(TOPIX)(配当込み)」といいます。)の指数値及び東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る標準又は商標は、株式会社JPM総研又は株式会社JPM総研の関連会社(以下「JPM」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る標準又は商標に関するすべての権利はJPMが有します。JPMは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPMにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPMは責任を負いません。

資産内容

2025年11月28日 現在

資産・市場別配分

資産・市場	純資産比
株式	98.8%
東証プライム	98.8%
東証スタンダード	－
東証グロース	－
その他	－
株式先物	－
株式実質	98.8%
現金等	1.2%

・株式実質は株式に株式先物を加えた比率です。
・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

業種別配分

業種	純資産比
電気機器	24.4%
銀行業	9.8%
輸送用機器	7.9%
化学	7.0%
卸売業	7.0%
その他の業種	42.8%
その他の資産	1.2%
合計	100.0%

・業種は東証33業種分類による。

組入上位10銘柄

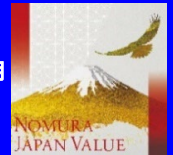
2025年11月28日 現在

銘柄	業種	市場	純資産比
三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	東証プライム	5.2%
トヨタ自動車	輸送用機器	東証プライム	5.2%
丸紅	卸売業	東証プライム	4.6%
東京エレクトロン	電気機器	東証プライム	4.5%
東日本旅客鉄道	陸運業	東証プライム	3.9%
日立製作所	電気機器	東証プライム	3.7%
フジクラ	非鉄金属	東証プライム	3.6%
住友不動産	不動産業	東証プライム	3.3%
鹿島建設	建設業	東証プライム	3.2%
ゆうちょ銀行	銀行業	東証プライム	3.1%
合計			40.2%

組入銘柄数： 45 銘柄

・純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。
・業種は東証33業種分類による。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。



先月の投資環境

○ 11月の国内株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が月間で1.40%上昇し、月末に3,378.44ポイントとなりました。

○ 11月の国内株式市場は上昇しました。月初は、前月の市場の大幅上昇を受けた利益確定と思われる動きなどから下落して始まりましたが、7-9月期決算で良好な業績が確認された企業などを中心に上昇に転じました。月央にかけても、米政府機関の閉鎖解除などが好感され、TOPIXが連日で最高値を更新するなど堅調な値動きとなりました。その後は、AI関連向け巨額投資への懸念や日中関係の悪化などから下落する場面もありましたが、下旬に入り、米大手半導体企業の好決算を手掛かりに国内の半導体、AI関連企業への業績拡大期待が高まったことや、低調な米経済指標を受けて米利下げ観測が強まったことなどから上昇し、月間でも上昇となりました。

○ 東証33業種で見ると、原油価格上昇による業績押し上げ期待から鉱業など26業種が上昇しました。一方で、AI分野における競争激化懸念から情報・通信業など7業種が下落しました。

先月の運用経過

(運用実績、分配金は、課税前の数値で表示しております。)

○ 月間の基準価額(分配金再投資)は+0.72%となりました。保有している銀行業、卸売業、建設業などの銘柄が上昇しました。

○ ポートフォリオではローコストオペレーション・エブリデイロープライスでインフレ・節約志向で成長が期待できる小売業株を買い付けしました。一方で、業績回復のタイミングが想定より遅れる可能性が高まった金属製品株を売却しました。

○ 組入上位銘柄は、総合金融グループの一角で、経費削減や子会社の収益力強化を進めている三井住友フィナンシャルグループ、国内最大手自動車メーカーでハイブリッドカーの需要増加が見込まれるトヨタ自動車、大手商社の一角で、収益性や成長性に応じた事業の入れ替えを進め株主還元の拡大にも積極的な丸紅、大手半導体製造装置メーカーで、AIサーバー向けに需要拡大が期待できるメモリ半導体向けのシェアが高い東京エレクトロン、大手鉄道会社の一角で、運賃改定や大型再開発による業績拡大、保有不動産の売却により資本効率改善が期待できる東日本旅客鉄道です。

今後の運用方針(2025年12月1日 現在)

(以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

○ 日本経済は、緩やかな成長が継続するとみています。7-9月期の実質GDP(国内総生産)成長率は前期比年率-1.8%となり6四半期ぶりのマイナス成長となりました。設備投資は堅調ですが、建築基準法改正の影響による住宅投資の大幅減や米国の関税引き上げ影響による輸出の弱含みがマイナスに影響しました。10月の全国消費者物価指数(除く生鮮食品)の前年同月比は+3.0%となり、前月から小幅に上昇しました。今後は、インフレ率の鈍化による実質所得改善と米関税の影響が一巡することによる輸出回復が見込まれます。21日に、政府は物価高対策、危機管理投資・成長投資、防衛力の強化等が盛り込まれた21兆円を超える総合経済対策を閣議決定しました。日銀の複数の委員からは利上げ実施が近づきつつあることを示唆する発言がみられています。利上げ時期をめぐっては、為替市場の動向も影響すると考えています。当社では2025年の日本の実質GDP成長率を前年比+1.3%と予想しています。

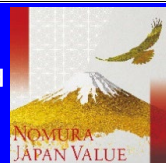
○ 日本の株式を投資指標から見ると、11月末時点でPBR(株価純資産倍率)は1.66倍※です。株式益回り(一株当たり利益÷株価)は5.65%※となっています。予想配当利回りは2.20%※となっており、長期金利(10年国債利回り)の1.80%を上回っています。(※TOPIX、出所:野村アセットマネジメント)

○ 以上の投資環境認識のもと、資産・収益などから見た割安な企業群の中から、①財務状況の変化、株主還元、②事業の競争力・成長性、経営改革、などの切り口で銘柄を見直していく方針です。特に、強い競争力に支えられた収益性を背景に株主還元を強化している企業、半導体関連やDX(デジタルトランスフォーメーション)など社会の変化を黒子として支える技術を持つ企業、ガバナンスの改善などから資本効率の改善が期待される企業などに注目しています。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)。ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様にご負担します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

商号 野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
一般社団法人投資信託協会会員／一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員



ファンドの特色

- 信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。
 - わが国の株式を実質的な主要投資対象※とします。
※「実質的な主要投資対象」とは、「ジャパン・ストラテジック・バリュー集中型マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
 - 株式への実質的な投資にあたっては、わが国の金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)している株式の中から、資産・利益等に比較して株価が割安と判断され、今後の株価上昇が期待できる銘柄の中から割安修正のきっかけまでの期間を考慮して厳選し、投資を行なうことを基本とします。
 - 株式の実質的な組入れにあたっては、フルインベストメントを基本とします。
 - ファンドは「ジャパン・ストラテジック・バリュー集中型マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
 - 原則、毎年9月18日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。
分配金額は、分配対象額の範囲内で、原則として配当等収益等の水準及び基準価額水準等を勘案し、委託会社が決定します。
* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。
- 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

ファンドは、株式等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。
※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 無期限(2025年10月22日設定)
- 決算日および収益分配 年1回の決算時(原則9月18日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位(当初元本1口=1円)または1万円以上1円単位(ご購入コースには、分配金を受取る一般コースと、分配金が再投資される自動けいぞく投資コースがあります。原則、ご購入後にご購入コースの変更はできません。)
※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換価価額 ご換価申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、NISA(少額投資非課税制度)の適用対象ファンドにおいてNISAを利用した場合には課税されません。ファンドは、NISAの「成長投資枠」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.3%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.6005%(税抜年1.455%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時)	1万口につき基準価額に0.3%以内の率を乗じて得た額(2025年9月26日現在0.2%) ※換金に応じて発生すると見込まれる費用水準等を踏まえ、信託財産留保額の水準を変更する場合があります。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に
応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

＜分配金に関する留意点＞

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

【ご留意事項】

- ・投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- ・登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。

ファンドの販売会社、基準価額等については、下記の照会先までお問い合わせください。

野村アセットマネジメント株式会社
★サポートダイヤル★ 0120-753104 (フリーダイヤル)
＜受付時間＞ 営業日の午前9時～午後5時
★インターネットホームページ★ <https://www.nomura-am.co.jp/>

＜委託会社＞ 野村アセットマネジメント株式会社
[ファンドの運用の指図を行なう者]
＜受託会社＞ 野村信託銀行株式会社
[ファンドの財産の保管および管理を行なう者]

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。投資信託のリスクやお申込メモの詳細についてのご確認や、投資信託をお申込みいただくにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。

◆設定・運用は

野村アセットマネジメント

商号 野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
一般社団法人投資信託協会会員／一般社団法人日本投資顧問業協会会員
一般社団法人第二種金融商品取引業協会会員

野村日本バリュー厳選投資

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。